

令和5年度 第2回大野市行政改革戦略会議 会議録

日時：令和5年10月30日（月）午後7時～9時15分

場所：市役所 第1会議室

<出席者> 大野市行政改革戦略会議委員 3名（欠席：近藤委員）
行政経営部長、総務課長、総務課長補佐、総務課員

1 開会

2 座長あいさつ

桑原座長あいさつ後、進行

3 議題

- (1) 大野市行政改革推進プラン2021【別冊】令和5年度進捗状況について
・大野市行政改革推進プラン2021【別冊】の令和5年度進捗状況を報告

※議事要旨は別紙のとおり

4 その他

- ・次回会議について
→ 今のところ予定なし 必要があれば開催したい
- ・キャッシュレス決済方針について
→ 方針案について説明 意見は後日いただく

5 閉会

座長あいさつ

【主な意見】

議題（1）行政改革推進プラン【別冊】令和5年度進捗状況

（取組 1-1）多様な情報発信手段の活用

- ホームページは必要な情報にたどり着くまでが難しい。簡単に検索できれば閲覧数は増える。「よく検索されるワード」などを解析して、トップ画面の上部にあげるなど工夫をしては。「子育て」「観光」などトップ画面ですぐ飛べるように。
 - ⇒ 昔からの課題。自治体の業務は多岐にわたるため、複雑になってしまう。費用対効果も考えながら進める必要がある。

（取組 2-1）市民が主体の人づくり・地域づくりの促進

- 市民がまだ将来のことを考えていない。地域づくり、人口減少対策が進まない。人口減少は致命的な問題だが、子どもに大野に残れとは言えない状況。
 - ⇒ 以前の福井市の大雪時のようなことが起きないと理解が進まない。どう市民に伝えていくかが課題である。
 - ⇒ 企業誘致をしても「雇用の確保を」と言われる。一方、働き場所がないからと若い人と市外へ出る。どのように進めるかが難しい。
- 若い人の転出を防ぐために雇用を増やすことは難しい。都会ではしづらい子育てのしやすさなどをPRしてはどうか。
- 地域の活動に活用できるクラウドファンディングの方法を考えてはどうか。（寄付積み立て型など）
 - ⇒ 参考にしたい。

（取組 2-9）他の自治体との交流、緊急時応援体制の構築

- 他自治体との交流が再開したが、宿泊施設が減っている。宿泊業者も手一杯で広げられない。空き家を宿泊施設として活用できないか。
 - ⇒ 空き家を宿泊施設にする補助金はない。運営事業者が出てくるとよい。

（取組 2-10）県内広域連携による各種事業の推進

- 外国人を受け入れるには、ターゲットを絞るとともに、どこの方面から来るのかなどによって、受入側の必要な整備も違ってくると思われる。外国人に関わらず Wi-Fi、キャッシュレス決済は優先度が高い。
 - ⇒ 名古屋方面から、または北陸新幹線開通後には金沢方面からの誘客も見込んでいる。外国人のターゲットは絞りづらいが、外国人観光客受入環境整備事業も活用し進めていきたい。

（取組 3-6）市民向け ICT サポートの強化

- タブレットや LINE を活用して市民との連絡を簡易にしては。
- 市民向け ICT 講座の利用はどの程度か。
 - ⇒ スマホの講座は初級者向けの方が参加者は多い。キャッシュレス決済を進めるには使う側も増やす必要がある。上級者向けではそのような講座もしていきたい。
- 「来てもらう」ではなく「出向く」講座をしては。

(取組 4-10) 行政事務のペーパーレス化

- ペーパーレス化は手段であって目的ではない。ペーパーレス化した先に何があるのか。
 - ⇒ 文書の検索や事務の効率化となるよう文書管理についても協議していく。

(取組 4-12) 職員の能力向上と組織力の強化

(取組 4-13) 職員の適正な定員管理と人員配置

- 専門的な知識を持った職員を育成するために、異動サイクルを長くし、職員の特徴に合わせたポジションへの配置など考えないといけないのではないか。
 - ⇒ 職員はどこの部署に異動してもスキルアップする必要がある。いくつかの部署を経験して初めて適材がわかる。そういったことに配慮して職員を配置している。
- 正職員については削減を進めているが、会計年度任用職員については触れていない。職員を減らしても会計年度任用職員でカバーしているのではないか。
 - ⇒ 職員は定員適正化計画に基づき、適正な人数である。会計年度任用職員を含めると職員は 600 人程度になるが、必要な部署に必要な人数を配置している。
- 仕事が増える中で、職員が減り、やめる仕事がない。業務を洗い直して減らしていかないと職員が大変。
 - ⇒ 市民サービスの向上を図るため、業務のスリム化は必要である。